

2021年度 こどもの木かげ・玉成幼稚園 自己評価・学校関係者評価

《こどもの木かげ・玉成幼稚園の自己評価》

1. 基本理念・保育方針

■こどもの木かげ 2002 基本理念

『汝らは、地の塩、世の光である』(マタイによる福音書5章第13節—14節)

キリスト教の愛の精神を基とし、幼な子が、自ら生きる力を高め、豊かな個性を育むことをめざしています。

こどもの木かげ(玉成幼稚園・野のはな空のとり保育園)では、0歳から就学まで一貫した保育方針にもとづき子どもの育ちに取り組んでいます。

■玉成幼稚園 保育方針

個の生活と集団での生活がバランスよく営まれるように配慮しながら、友だちや周りの人たちに受け入れられていることを意識し、お友だちとの相互交渉を通じて「ともに生きる喜び」を身につけられるように育てていきます。

保育は、「子どもの心に絵を描かせる」時間と場所の提供であり、子どもの傍らには子どもを励ます保育者がいて、イメージや想像力をたっぷりと与えてあげられる保育の時間と、子どもが自分であそび、自分で学ぶことができるように工夫された保育の流れをつくっていきます。

こんな子どもに育てほしい・・・アルウィン学園のめざす子ども像

- ①生きる力の礎である「自らの力で探求ししながら人とのかかわりをととして生きる喜びや自己実現が達成できるように
- ②「一人一人が違ってよい」興味や得意なことを伸ばし個性豊かなになれるように
- ③あそびをととして感性や知的能力・創造性・社会性を体得できるように

2. 活動状況と自己評価

【基本事項】(こどもの木かげ共通)

◆子どもたちが、自らの力でとりくむ姿勢が育ち、友だちとのかかわりを高め、育ち合っているか

子どもたちが主体的に環境にかかわり、さまざまな活動を展開していくために物だけではなく人的環境、時間、空間を通して子どもの発達を促すような保育に取り組んできた。園生活の中で3歳、4歳、5歳児が自然に交わり合いながら活動やあそびに取り組みそのかかわりの中で相手の気持ちを理解しようとする姿がみられた。

◆子どもたちに豊かな感性が育つようとりくみや自発的なあそびをととりくめるように保育をおこなってきたか

子どもたちの活動がより豊かになるよう楽しい雰囲気の中で安定してじっくりあそび込める環境構成を整えた。又、活動の展開に応じて環境を再構成して常に子どもたちが心を動かすことができるよう保育を行った。

【重点的に取り組む事項】

◆内部研修を強化し継続的に行う

- ・研修体系・内容のさらなる見直しをおこない保育の質を高めることにつなげていく
- ・経験年数に応じた研修を実践し、一人ひとりの力を強化していく

一年を通してコロナ禍での保育活動は安全・安心の保育を第一に考慮して行った。

できる限りの感染対策を行い、外部研修においてもオンラインによるものに参加し、より保育内容の学びを深め有効な時間となった。

◆職位に応じた仕事の遂行を徹底する

- ・それぞれの役割を理解し保育者一人ひとりの力が発揮できる環境を整えていく
- ・経験に応じた仕事・役割を各自が理解し園の運営を支えていく意識を高める
- ・業務の効率化をはかるため新しい方法も取り入れる

それぞれが任された業務を遂行してきたが、リーダーの負担が大きかったので、内容によっては新型コロナウィルス感染拡大予防のための対策を徹底し、リーダーシップを発揮したり援助側に立ったり、皆で協力体制を強化し園としての方針を示したコロナ禍での伝達方法等、業務の効率化を図っていきたい

◆保育内容の充実を図り職員間で情報交換をしていく

- ・表現活用に関する内容(描画・造形・音楽表現・身体運動)などが充実できるよう工夫・研究し実践していく
- ・職員全治で子どもたちの活動情報を共通理解し目的をもって継続的にあそびや活動が行えるよう援助する

描画・造形活動においては、表現活動における材料の本来の使用方法・目的など再度研究していく必要があるコロナ禍で表現方法もかぎられてしまうこともあったができる限り工夫しながら活動を行った

3. 今後の課題、取り組んでいきたいこと

- 1 保育の学びを深め、保育の質の向上に努め実践していく
 - ・教育課程の作成
 - ・リーダー会の持ち方、リーダー業務内容の見直し
 - ・カリキュラムミーティングをさらに充実させる
 - ・ケースカンファレンスを継続して行う
- 2 良好なコミュニケーションと意欲をもてる職場づくり（同僚性）
 - ・職位に捉われず意見を出し合える職場環境を目指す
 - ・互いの個性や考えを尊重し認め合え互いに支え合っていく関係性の構築
 - ・保育内容や行事の目的とねらいを再確認し検討しながら進める
 - ・今までのやり方にとらわれず新しい方法もとり入れ業務の効率化を図る
- 3 丁寧な保護者支援を行う
 - ・就業 ・保護者会 ・子ども ・PTA活動
 - ・園に対する保護者のニーズを捉え子どもに対する悩み園に対する思い早期に受けとめ丁寧に一緒に考え解決できるよう支援していく
 - ・日常的にコミュニケーションをとっていく

【運営委員（学校関係者評価）の評価】

1 当年度の活動状況について

まず自己評価では、コロナ禍における消毒作業等を含む『健康と安全に関する取り組み』項目や、子どもたちへの対応を主とする『指導と関わり』項目、『セキュリティプライバシーの保護』項目の部分において高水準の評価を維持していることは職員の方々の皆さまのご努力がうかがえる。しかしながらコロナ禍に付随する作業量は必然的に増え、運動会などの行事実施も今までにない形を余儀なくされ職員の方々の負荷は相当なものであった。その中でも何とか保育を維持しようと日々模索されていたことに敬意を表したい。一方で、職員間の協力や連携の点でいくつかの問題点が浮かび上がっているように見受けられ、気になる点となっている。

2 今後のとりくみ

引き続きコロナ禍の中での保育を継続していくこととなるが、これまでにノウハウが蓄積された部分もあり、今後は前向きな課題に取り組む余裕が出来ることを期待したい。具体的な課題は自己評価でも打ち出しておられるので、それぞれの課題に取り組むことで保育の質の向上に務めて頂きたい。その中で、運営委員会では小学校との連携について意見が出ていたこともあり、子どもたちがスムーズに小学校に馴染んでいけるために必要なフォローについても検討して頂きたい。また一方で、職員の方々の健康を大切にすることもさらに心掛けて頂きたい。加えて、保護者の方々とも十分な意見交換をしつつ皆で子どもたちのために良い方向に進めることを願う。

3 総合所見

現在、社会情勢は以前には想像し得なかった形に変化していき、生活様式や働き方への意識も大きな変換を迎えている。このような中、こどもの木かげの理念を大前提に置きつつも幼稚園のあり方も慎重に検討していく必要性が出てきたと感じている。これは一朝一夕に行われるべきことではないが、中長期的な視点で議論を重ねて行かなくてはならないであろう。議論した結果も含め、園の考え方や取り組みなどの情報発信も丁寧に行っていくことが求められる。まずは日々の、目の前の子どもたちに真摯に向き合い、職員の方々の健康を確保した上で運営委員会も一緒になってこどもの木かげのより良い形を追求して行きたい。